

鶴岡工業高等専門学校	一般科目	開講年度	平成29年度 (2017年度)
------------	------	------	-----------------

学科到達目標

総合科学科は、国語・英語・ドイツ語・数学・理科・社会・芸術・保健体育等の、広い分野へわたる教科を担当する教員の組織です。高専卒業後、国際社会に通用する創造的技術者として自由自在に活躍するためには、学生一人一人が正確で幅広い知識と豊かな教養を身に付け、人間性を高める必要があります。総合科学科教員は、新たな知識を得ることを喜び、他者と異文化を尊ぶ姿勢を持つ、情操豊かで健全な市民の育成を目指します。

総合科学科が担当する授業は、一般教養科目と基礎専門科目から成り立っており、本校全学科の学生を対象とする必修科目です。一般教養科目は、生き生きとした国際感覚を持ち、他者としっかりとコミュニケーションし、物事の本質を見極める眼をもつ学生の育成を目指す科目です。学習内容は幅が広く、高等学校の授業に準じた内容の授業から、大学の教養科目に準ずる内容の授業に及びます。基礎専門科目は、応用数学と応用物理です。全学科に共通する問題に対処できる基礎能力の育成を目指す科目です。また5年生対象の「共通選択・一般科目」や専攻科学生対象の「共通一般科目」も担当しています。なお、総合科学科教員は、全学科1・2年生の学級担任を受け持っており、本校の人間教育の最も重要な部分を担っております。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	保健・体育Ⅲ	68469	履修単位	2									2	2									松橋 将太			
一般	必修	歴史Ⅱ	68470	学修単位	1									1										山田 充昭			
一般	必修	政治・経済	68471	履修単位	2									2	2									薄葉 祐子			
一般	必修	物理Ⅱ	68474	履修単位	2									2	2									大西 宏 昌岩 岡伸 之,富 摩栄 路吉 木宏 之			
一般	必修	国語Ⅲ	68475	学修単位	3									1.5	1.5									森木 三 穂有 智枝 子			
一般	必修	英語Ⅴ	68476	履修単位	2									2	2									丹生 直 子菅 野智 城			
一般	必修	英語Ⅵ	68477	履修単位	2									2	2									田邊 英 一郎阿 部秀樹			
一般	必修	日本語Ⅰ	68509	履修単位	2									2	2									長谷川 佐知子			
一般	必修	日本語Ⅱ	68510	履修単位	2									2	2									富樫 恵			
一般	必修	日本事情	68511	履修単位	2									2	2									澤 祥 薄葉 祐子			
一般	必修	保健体育(4年)	0232	学修単位	2												1	1						松橋 将太			
一般	必修	英語Ⅰ(4年)	0233	履修単位	2												2	2						丹生 直子			
一般	必修	ドイツ語(4年)	0234	学修単位	2												1	1						佐藤 伸 浩,LUK ASRIE SER			
一般	必修	保健体育(5年)	0197	学修単位	1															1				松坂 渉			
一般	必修	ドイツ語(5年)	0198	学修単位	2															1	1			佐藤 伸 浩,LUK ASRIE SER			
一般	必修	語学演習(田邊)	0199	学修単位	1															1				田邊 英 一郎			
一般	必修	語学演習(阿部)	0261	学修単位	1															1				阿部 秀樹			
一般	必修	語学演習(菅野)	0262	学修単位	1															1				菅野 智城			

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健・体育Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	68469		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	Activesports						
担当教員	松橋 将太						
到達目標							
1集団の中で相手を理解し、目標達成のためのコミュニケーションが図れる。 2自己の能力に応じて運動技能や課題達成へむけた取り組みができる。 3運動を行う環境に対して安全配慮ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ルール・マナーに高い意識を持ち、自身の長所を発揮して、集団の勢いの向上につなげることができる。		ルールやマナーを守り、自身の持つ能力を発揮できる。		ルール・マナーに対する意識が低く、自身の能力発揮の意識が低い。	
評価項目2		相手の意見を聞き、自身の意見を伝え、協力・協調関係を積極的に構築することができる。		相手の話を理解し、互いの協力・協調関係に参画意欲を示すことができる。		相手との協力・協調関係構築のための意思疎通を図ろうとしない。	
評価項目3		用具や施設を正しく大切に使用し、周囲にも安全配慮を促すことができる。		用具や施設を正しく使用できる。		用具や施設管理運用をするうえで自身の安全配慮ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		各種目を通じて基本的な技術を習得し、ゲームで活かすことができる。 集団内における自身の役割と責任を自覚し、他者と協力して各種目を実行できる。 他者とのより良い関係性の構築や自己の生活環境の向上に取り組むことができる。					
授業の進め方・方法		適時種目内容に応じて適切な施設、用具、服装を使用して、毎時間の目標に沿った形で進めることとする。					
注意点		実技について ・各種目毎に、それぞれの競技特性に応じた観点からスキル評価を行い、点数化する。 学期内に取り組んだ種目数が複数の場合、それぞれの点数の合計を種目数で割り、実技店とする。 ※校内体育大会（6時間）は体育授業時数として扱うこととする。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	・各競技（サッカー／ソフトボール、バドミントン／バスケットボール、バレーボール／ソフトバレー、長距離／卓球）意義と特性を理解する			・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。	
		2週	・基礎スキル練習を実行する			・仲間と協力して行動できる。	
		3週	・基礎スキル練習を実行する			・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。	
		4週	・試合を行う			・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。	
		5週	・試合を行う			・自身の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。	
		6週	・バスケットボール競技の意義と特性を理解する			・バスケットボールのルールを守り、安全な環境設営ができる。	
		7週	・基礎スキル練習を実行する			・仲間と協力して行動できる。	
		8週	・基礎スキル練習を実行する			・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。	
	2ndQ	9週	・試合を行う			・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。	
		10週	・試合を行う			・自身の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。	
		11週	・ソフトボール競技の意義と特性を理解する			・ソフトボールのルールを守り、安全な環境設営ができる。	
		12週	・基礎スキル練習を実行する			・仲間と協力して行動できる。	
		13週	・基礎スキル練習を実行する			・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。	
		14週	・試合を行う			・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。	
		15週	・試合を行う			・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。	
		16週					
後期	3rdQ	1週	・サッカー競技の意義と特性を理解する			・サッカーのルールを守り、安全な環境設営ができる。	
		2週	・基礎スキル練習を実行する			・仲間と協力して行動できる。	
		3週	・基礎スキル練習を実行する			・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。	

		4週	・試合を行う	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。
		5週	・試合を行う	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。
		6週	・バレーボール／ソフトバレー競技の意義と特性を理解する	・バレーボール／ソフトバレーのルールを守り、安全な環境設営ができる。
		7週	・基礎スキル練習を実行する	・仲間と協力して行動できる。
		8週	・基礎スキル練習を実行する	・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。
	4thQ	9週	・試合を行う	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。
		10週	・試合を行う	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。
		11週	・バドミントン／卓球競技の意義と特性を理解する	・バドミントン／卓球のルールを守り、安全な環境設営ができる。
		12週	・基礎スキル練習を実行する	・仲間と協力して行動できる。
		13週	・基礎スキル練習を実行する	・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。
		14週	・試合を行う	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。
		15週	・試合を行う	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	50	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	20	0	50	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	30	0	0	30

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	歴史Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		68470		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		一般科目		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		1	
教科書/教材		世界の歴史（近藤和彦他著 山川出版社）					
担当教員		山田 充昭					
到達目標							
近代以降の世界史の大局を把握し、現在の国際社会がいかなる経緯で形成され、どのような特徴を持つものであるのか認識できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
基礎的な歴史事象の認識する力		歴史用語等を多く習得しており、かつ、同用語等を駆使して近現代の世界情勢を説明することができる。		歴史用語等を習得しており、同用語等の意味も理解することができる。		左記ができない。	
歴史事象間の因果関係の考察する力		政治・社会の諸情勢がどのような事件引き起こし制度を生み出したか、またその制度や事件が、次世代のどのような政治・社会現象を起こす原因となっているか、その経緯脈絡を説明することができる。		近現代の世界情勢を特徴づけている政治・社会要因を説明することができる。		左記ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		世界の近・現代史を概観し現在の国際環境を特徴づけることとなった歴史事象を認識する。					
授業の進め方・方法		担当教員が近代以降における世界史の特徴や、個々の事象・現象の社会背景、あるいは歴史的意義について黒板に要点をまとめながら説明する、座学・講義形式を基本とする。但し、与えられた課題について自学し、授業中に発表させることもある。					
注意点		受講学生は、板書や教師の発言、授業中の質疑応答の授内容等を各自で「記録」し、評価考査の試験望むとよいだろう。「記録」については、受講学生“各自の範囲”での自学自習に資する目的である場合に限り、撮影・録音を行ってもかまわない。評価は定期試験（前期末試験）50%、課題・レポート等の提出物40%、授業の出席状況や態度10%の割合で行う。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 大航海時代		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		2週	宗教革命		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		3週	産業革命		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		4週	市民革命		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		5週	第一次世界大戦		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		6週	第二次世界大戦		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		7週	東西冷戦		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
		8週	テロリズム		今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。		
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。		3	

				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	
				国家間や国内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	
		公民		哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	3	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	3	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
		地歴・公民		現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3	前1
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	

評価割合

	試験	課題・レポート	態度				合計
総合評価割合	50	40	10	0	0	0	100
基礎的能力	40	30	0	0	0	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	10	10	0	0	0	30

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	68471			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	政治・経済（佐々木毅他著 東京書籍刊） / 「政治・経済資料2017」（とうほう）						
担当教員	薄葉 祐子						
到達目標							
“政治”については、日本国憲法を基礎に政党や自治体の諸相を、“経済”に関しては、資本主義体制下の産業構造等の特質を、それぞれ理解できる。また、これを前提として、現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を認識することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本における政党や自治体の諸相を説明できる			日本における政党や自治体の諸相を理解する		日本における政党や自治体の諸相が理解できない	
評価項目2	資本主義体制下の産業構造等の特質を説明できる			資本主義体制下の産業構造等の特質を理解する		資本主義体制下の産業構造等の特質を理解できない	
評価項目3	現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を説明できる			現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を理解する		現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代日本における政治・経済の特性を概説。						
授業の進め方・方法	座学・講義形式。担当教員が時事の問題や話題を取り上げながら、背景にある法律・制度・システムについて、黒板に要点をまとめながら説明する。						
注意点	少なくとも板書事項は記録しておき、各自で授業内容を再整理できるようつとめる。総合評価は、定期試験70%（前期中間・前期末・後期中間各15%、学年末試験25%）、課題・レポート等の提出物20%、授業の出席状況や態度10%の割合で行う。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1-1-①民主政治の成立		民主政治の基本原則について、その成り立ちを歴史的な観点から理解する。		
		2週	1-1-②法の支配 1-1-③基本的人権の確立		法の種類、機能について理解する。人権の意義と歴史的経緯および人権の国際化の現状について理解する。		
		3週	1-1-④現在の民主政治		議院内閣制と大統領制の形態について理解する。		
		4週	1-1-⑤世界のおもな政治体制		議院内閣制と大統領制の形態について理解する。		
		5週	1-2-①日本国憲法の制定と基本原理		日本国憲法の成立過程と三大基本原理について歴史的な経緯を踏まえながら理解する。		
		6週	1-2-②基本的人権の保障		日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。		
		7週	1-2-③平和主義		日本国憲法の根本理念である平和主義について理解する。		
		8週	1-3-①国会と立法		国会が「国権の最高機関」とされることの意義と三権分立との関係を理解する。		
	2ndQ	9週	1-3-②内閣と行政		内閣の機能や内閣総理大臣の権限を理解する。		
		10週	1-3-③裁判所と司法(1)		司法のあり方について理解する。		
		11週	1-3-③裁判所と司法(2)		司法のあり方について理解する。		
		12週	1-3-④地方自治		地方自治の意義とあり方、国と地方との関係を理解する。		
		13週	1-4-①戦後政治と政党		民主政治における政党や利益集団の意義と役割、ならびに選挙の意義を理解する。		
		14週	1-4-②選挙と政治意識		民主政治における政党や利益集団の意義と役割、ならびに選挙の意義を理解する。		
		15週	1-4-③世論と政治参加		マスメディアの現状とあり方について理解する。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	2-1-①資本主義体制の成立と発展		資本主義経済成立の歴史的経緯、および特徴や変遷について理解する。		
		2週	2-1-②現代経済の特質 2-2-①経済主体と経済の循環		グローバル化や情報化が進む今日の資本主義経済の特徴について理解する。		
		3週	2-2-②生産のしくみと企業		資本主義経済を支える企業活動について理解する。		
		4週	2-2-③市場経済の機能と限界(1) 2-2-③市場経済の機能と限界(2)		資本主義経済の核心をなしている市場の働き、および市場の失敗について理解する。		
		5週	2-2-④国民所得と経済成長		国民経済をマクロ的にとらえることの意義を理解する。		
		6週	2-2-⑤金融のしくみと機能		金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解する。		
		7週	2-2-⑥財政のしくみと機能		租税の意義や財政の基本的な役割を理解する。		
		8週	2-3-①経済再建から高度成長へ		第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解する。		
	4thQ	9週	2-3-②オイル・ショック後の日本経済		オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解する。		

		10週	2-3-③日本経済の現状	「構造改革」の特徴と影響、世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状について理解する。
		11週	2-4-①公害と環境保全	公害問題の現状を理解する。
		12週	2-4-②消費者問題 2-4-③農業・食料問題	経済発展の関係性、消費者問題、農業・食料問題の現状を理解する。
		13週	2-4-④中小企業の現状と課題	中小企業の地位と役割について学び、日本の中小企業の現状と課題について理解する。
		14週	2-4-⑤雇用と労働問題	労働問題と労働運動の歴史的経緯、雇用環境の変化と現代の労働問題について理解する。
		15週	2-4-⑥社会保障と福祉	社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	前5
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	3	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	3	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	

評価割合

	試験	課題・レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	50	10	0	0	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	10	0	10	0	0	40

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	68474		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	高等学校 物理基礎（第一学習社）、力学I(大日本図書)/《参考書》セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）					
担当教員	大西 宏昌,岩岡 伸之,當摩 栄路,吉木 宏之					
到達目標						
講義・問題演習及び物理実験を通して、物理現象を系統的・理論的に捉える能力を養う。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	物理現象を系統的・理論的に応用することができる。		物理現象を系統的・理論的に捉えて説明することができる。		物理現象を系統的・理論的に捉えることができない。	
評価項目2	「力積」と「運動量の保存則」の関係を理解して理論的に説明することができる。		「力積」と「運動量の保存則」の関係を理解することができる。		「力積」と「運動量の保存則」の関係を理解することができない。	
評価項目3	等速円運動、単振動に関する法則を理解し、回転・振動現象を定量的に説明できる。		等速円運動、単振動に関する基本公式を用いて、回転運動・単振動の数値計算ができる。		等速円運動、単振動に関する基本公式を説明できない。	
評価項目4	「熱力学第1法則」と「気体の状態変化」に関連した問題を解くことができる。		「気体分子の熱運動」と「絶対温度」の関係及び「熱力学第1法則」を説明することができる。		「気体分子の熱運動」と「絶対温度」の関係を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	2年で履修した[物理]に引き続き前期は、「運動量の保存則」、「等速円運動」、「単振動」、「万有引力」について学ぶ。後期は、「熱とエネルギー」について学ぶ。また、物理実験のスキルを身に付けると共に物理現象の法則性を読み解く能力を養う。					
授業の進め方・方法	講義・問題演習を主体とし、「物体のもつ運動量」「力積」「運動量保存則」「熱と温度」「熱と仕事」「熱力学第1法則」「気体の状態変化」「等速円運動」「単振動」「万有引力」について学ぶ。学生実験では、物理量の測定や現象の観察を行い、物理的な考察・分析能力を養うことを目的としてレポート作成をおこなう。					
注意点	【評価基準】 下記評価割合に沿って評価を行い、総合評価50点以上を合格とする。「その他」では授業・実験に対する取り組み姿勢や課題提出状況などを評価する。 試験問題は各達成目標に即した内容で、問題のレベルは教科書の問題および問題集の基本問題程度を出題する。					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	運動量と力積		・ 物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	
		2週	運動量と力積		・ 運動量変化と力積の関係を理解して関連した問題を解くことができる。	
		3週	運動量保存の法則		・ 「運動量保存則」を理解して、説明することができる。	
		4週	運動量保存の法則		・ 「運動量保存則」を応用して様々な物理量の計算ができる。	
		5週	反発係数		・ はね返り係数と弾性衝突、非弾性衝突の関係を理解して、説明できる。	
		6週	反発係数		・ 「反発係数」を適用して、2物体の衝突現象の分析ができる。	
		7週	到達度確認問題演習		・ 「力積」「運動量保存則」「反発係数」に関連した物理諸量の基本的な問題を解くことができる。	
		8週	等速円運動の基本的性質		・ 等速円運動の速度、角速度、回転数、加速度の説明ができる。	
	2ndQ	9週	向心力と遠心力		・ 等速円運動する物体に働く向心力と、慣性力（見かけの力）である遠心力を説明できる。	
		10週	等速円運動する物体の記述		・ 円錐振り子やカーブを回る物体の諸物理量（周期や角速度）を数値計算できる。	
		11週	単振動の基本的性質		・ 単振動の位置、速度、加速度を、等速円運動と対比することで説明できる。	
		12週	ばねの運動・単振り子の運動		・ ばねに働く弾性力による運動が単振動になることを定量的に説明できる。また、振り子の等時性を定量的に説明できる。	
		13週	惑星の運動とケプラーの法則・万有引力の法則		・ 惑星の運動に関するケプラーの3つの法則を定量的に理解できる。また、ニュートンが発見した万有引力を理解し、万有引力からケプラーの第3法則が導出できることを定量的に説明できる。	
		14週	万有引力と重力		・ 万有引力と遠心力の合力が天体表面の重力となることを理解できる。	
		15週	万有引力の位置エネルギー		・ 万有引力の位置エネルギーを定量的に理解し、第1, 2宇宙速度を求めることができる。	
		16週				

後期	3rdQ	1週	熱と温度	・原子・分子の熱運動と絶対温度の関係を理解できる。
		2週	熱容量、比熱	・「熱平衡」の概念や、物体の「熱容量」「比熱」の関係を説明できる。
		3週	熱量保存則	・「熱量保存則」を表す式を立てて、物理諸量の計算ができる。
		4週	熱と仕事	・ジュールの実験や摩擦熱から、「熱と仕事」の関係を説明できる。
		5週	熱力学第 1 法則	・「熱力学第 1 法則」を理解して、関連した問題を解くことができる。
		6週	熱機関と熱効率	・熱機関と熱効率について、理論的に説明できる。
		7週	ボイル・シャルルの法則	・「ボイル・シャルルの法則」から気体の状態変化後の圧力・温度・体積を計算して求めることができる。
		8週	気体の状態変化	・定積・定圧・等温・断熱変化について、理論的に説明することができる。
	4thQ	9週	到達度確認問題演習	・熱量保存の法則、気体の状態変化に関する基本的な計算問題が解ける。
		10週	物理実験ガイダンス	「力学」、「熱」、「波動」実験の概要と、有効数字の概念とデータ解析手法を理解できる。
		11週	力学の実験	台車を用いた 2 物体の等加速度運動について v-t グラフを基に台車の加速度等を導出できる。
		12週	熱の実験	電熱線を用いたジュールの実験から熱の仕事当量を導出できる。
		13週	波動の実験	共鳴管を用いた閉管の共鳴実験から音叉の振動数を導出できる。
		14週	実験レポート作成 I	「力学」、「熱」、「波動」の実験結果の考察およびレポート作成。
		15週	実験レポート作成 II	再実験・補充実験とレポートの改訂。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	1	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				物体に作用する力を図示することができる。	3	
				力の合成と分解をすることができる。	3	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	
				慣性の法則について説明できる。	3	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	1	
				静止摩擦力がはたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	

				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
			熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	
				時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3	
				物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	4	
				熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3	
				動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3	
				ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3	
				気体の内部エネルギーについて説明できる。	3	
				熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3	
				エネルギーには多くの形態があり互に変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3	
				不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	3	
				熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3	
			波動	共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	4	
			電気	ジュール熱や電力を求めることができる。	4	
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
				熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	
				波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	

評価割合							
	前期中間試験	前期末試験	後期中間試験	実験レポート	問題演習	その他	合計
総合評価割合	15	25	15	30	10	5	100
基礎的能力	10	20	10	20	5	0	65
専門的能力	5	5	5	5	5	0	25
分野横断的能力	0	0	0	5	0	5	10

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	68475			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	一般科目			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材	三省堂『精選 現代文B』,国語辞典						
担当教員	森木 三穂,有地 智枝子						
到達目標							
1. 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。 2. 相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。 3. 社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に使い、社会的コミュニケーションとして実践できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。		論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。		論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解できる。	
評価項目2		相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。		相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。		相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。	
評価項目3		社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に使い、社会的コミュニケーションとして実践できる。		社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。		社会で使用される言葉を始め広く日本語を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本授業の主目標は、社会人として最低限必要な「聞く」・「読む」・「書く」・「話す」ことの、総合的な能力向上を目指す。具体的な副目標は次の2点である。1 論理的思考能力の育成のために、日本語を学び直し、正確な読解力を身につける。2 グループワークを中心に、他者とのコミュニケーションの向上を図り、協調性を身に付ける。課題提出等は、目標達成のため、適宜行う予定である。国語辞典は各自用意すること。					
授業の進め方・方法		基本的に講義形式で進める。またグループワークを中心とした演習形式の授業もある。					
注意点		授業はあらかじめ、予習をしてから臨むこと。ノートは必ずとること。なお、国語辞典（紙媒体・中学校で使用したものも可）は各自用意すること。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス			1年間の授業の流れを理解し、受講する姿勢を身につけることができる。	
		2週	評論（1） 「「ブーバー」と「マンマ」の記号論」			論理的な文章を読解し、筆者の主張や、論理の展開を読み取ることができる。	
		3週	評論（1） 「サフルとフレル」			同上	
		4週	メモのとり方			実生活や仕事で役に立つメモのとり方を、5W1Hを中心に学ぶことができる。	
		5週	評論（2） 「身体〈の〉疎外」			論理的な文章を読解し、筆者の主張や、論理の展開を読み取ることができる。	
		6週	評論（2） 「判断停止の快感」			同上	
		7週	評論（2） 「病と科学」			同上	
	2ndQ	8週	話し言葉と書き言葉の使い分け			話す言葉と書く言葉の相違と、TPOによる使い分けを身につけることができる。	
		9週	手紙の書き方			手紙の基本的なマナーを身につけることができる。	
		10週	資料の読み取りⅠ			表・図・グラフから、正しい情報を読み取るためのポイントをつかむことができる。	
		11週	資料の読み取りⅡ			同上	
		12週	説明のコツ			聞き手が理解しやすい説明をすることができる。	
		13週	小説Ⅰ 「靴の話」			小説が描き出す世界に親しみ、感想をまとめることができる。	
		14週	小説Ⅱ 「舞姫」			同上	
		15週	まとめⅠ			前期授業の総復習が自力でできる。	
16週							

後期	3rdQ	1週	明解な文章を書く	読み手に言いたいことが伝わるような文の組み立てと表現を身につけることができる。
		2週	要約の力をつける	ある程度難しい文章の内容を理解し、要点をまとめる力をつけることができる。
		3週	レポート・小論文の書き方Ⅰ	堅実なレポート・小論文を書くための、具体的手順と表記方法を学ぶことができる。
		4週	レポート・小論文の書き方Ⅱ	同上
		5週	レポート・小論文の書き方Ⅲ	同上
		6週	詩歌	様々な詩歌に触れ、表現の多様性を学び、自ら創作できる。
		7週	短歌・俳句	短歌・俳句の形式を学び、実際に詠むことができる。
		8週	履歴書の作成	インターンシップや就職を意識し、具体的に履歴書の準備ができる。
	4thQ	9週	面接の受け方	・就職・進学に必要な面接の受け方を学ぶことができる。
		10週	メールの書き方Ⅰ	社会人に必要なメールのスキルを身につけることができる。
		11週	メールの書き方Ⅱ	同上
		12週	エッセイを書いてみよう	自分の考えや興味について、読み手を意識しながら、自由に書くことができる。
		13週	評論（３） 「南の貧困／北の貧困」	近代批評の確立者の文章を読み、批判精神というものを理解できる。
		14週	評論（４） 「日本文化の雑種性」	同上
		15週	まとめⅡ	後期授業の総復習が自力でできる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	5	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	4	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	4	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	4	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	4	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	80	0	0	10	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語Ⅴ
科目基礎情報						
科目番号	68476			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目			対象学年	3	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	Trend Watching					
担当教員	丹生 直子,菅野 智城					
到達目標						
長文英語を読みながら基本文型を学び、読む・書く能力を重点的に伸ばす。4年時にTOEIC対策の授業を受けるための基礎的な英語力を身に着ける。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 長文を読み、その内容を日本語で説明する。		英語の長文の内容を日本語で明確に説明できる。		英語の長文の内容を日本語で概ね説明できる。		英語の長文の内容を理解できない。
評価項目2 会話文・英文を流暢に発音する。		会話文・英文を流暢に発音できる。		会話文・英文を発音できる。		会話文・英文を発音できない。
評価項目3 基礎構文を応用した英文を書く。		基礎構文を応用した英文を文法・単語の間違いなく書くことが出来る。		基礎構文を応用し、理解可能な英文を書ける。		基礎構文を応用した英文が書けない。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		最近の時代の動向について書かれた英語エッセイを読みます。誰もが興味を持ちそうな話題を取り上げているので、内容を楽しみながら英語を読むことが出来ます。どちらかというと読むことが中心ですが、これまで学んだことを復習しつつ、聞いたり書いたりする力も高めることも目指します。				
授業の進め方・方法		予習として事前に英文を読み、授業で日本語に訳していく形式で進めていきます。英作文をこなしていきます。各章を2週間かけて学び、全14章を勉強します。				
注意点		毎回の授業への予習復習が大切です。授業で英語への理解を深めるために予習を行い、授業で習った内容を復習して学習内容を定着させていきます。				
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス。 Chapter 1 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		2週	Chapter1 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		3週	Chapter2 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		4週	Chapter2 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		5週	Chapter3 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		6週	Chapter3 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		7週	Chapter4 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		8週	中間試験		中間試験を受験する。	
	2ndQ	9週	Chapter4 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		10週	Chapter5 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		11週	Chapter5 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		12週	Chapter6 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		13週	Chapter6 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		14週	Chapter7 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		15週	Chapter7 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	Chapter8 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		2週	Chapter8 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		3週	Chapter9 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		4週	Chapter9 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		5週	Chapter10 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		6週	Chapter10 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	
		7週	Chapter11 長文読解と語彙・イディオムの学習。		長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。	
		8週	中間試験		中間試験を受験する。	
	4thQ	9週	Chapter11 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。		長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。	

		10週	Chapter12 長文読解と語彙・イディオムの学習。	長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。
		11週	Chapter12 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。	長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。
		12週	Chapter13 長文読解と語彙・イディオムの学習。	長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。
		13週	Chapter13 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。	長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。
		14週	Chapter14 長文読解と語彙・イディオムの学習。	長文の内容を理解し、日本語訳で意味を説明する。
		15週	Chapter14 設問による長文理解の確認。リスニング、英作文、英文の音読。	長文の理解を深め、その内容を英語で要約する。英文の発音する。基本文型を応用した英文を書く。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	
			英語の発音記号を見て、発音できる。	3	
			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
			自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語VI
科目基礎情報						
科目番号	68477		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	前期) 高校生のためのTOEIC Bridge 入門, 後期) Cross Over the TOEIC Bridge Test					
担当教員	田邊 英一郎,阿部 秀樹					
到達目標						
1 標準的な文法事項及び(英検準2級～2級レベルの)単語・熟語の習得と運用。 2 上記の知識を標準的な英文の読解や作文に応用でき、聞き取りや口頭英作文ができる。 3 TOEIC (Bridge),英検などの各種検定試験を受験し、合格できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		四技能を完全に駆使した問題解決能力がある。	高校標準レベルの問題解決能力がある。	高校標準レベルの問題解決能力がない。		
評価項目2		四技能を駆使した問題解決能力がある。	高校標準レベルの問題解決能力がある。	高校標準レベルの問題解決能力がない。		
評価項目3		四技能を駆使した問題解決能力がある。	高校標準レベルの問題解決能力がある。	高校標準レベルの問題解決能力がない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	これまで学習した基本的な英語の単語や文法を復習することで、TOEIC対策のための基礎固めを行う。1年間TOEICへの橋渡しとしてTOEIC Bridge対策のテキストを使用しながら、①TOEIC特有の出題形式に慣れること、②標準的スコアを取るために最低限必要な語彙力、文法知識、及びできるだけ要領よく正解を選ぶコツを身につけることを目指す。併せて、ヒアリング・スピーキング対策としての発音指導も行う。					
授業の進め方・方法	授業は教科書問題を演習形式で行うので、集中して聴講し,必ず復習すること。課題、提出物もあるので、指示にしたがうこと。					
注意点	試験の成績70%, 平素の学習状況等（課題・小テスト・レポート等を含む）を30%の割合で総合的に評価する。					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	TOEIC Bridge Unit 1,2	1) TOEIC Bridge の問題形式に慣れる。 2) 品詞を理解し、英文の構造を知る。		
		2週	TOEIC Bridge Unit 3,4	1) TOEIC Bridge の問題形式に慣れる。 2) 品詞を理解し、英文の構造を知る。		
		3週	TOEIC Bridge Unit 5	1) トピックを聴き取り、話し手を特定する。 2) wh で始まる疑問文を理解する。		
		4週	TOEIC Bridge Unit 6	1) トピックを聴き取り、話し手を特定する。 2) wh で始まる疑問文を理解する。		
		5週	TOEIC Bridge Unit 7	手紙・図表などの読み取りに慣れる。		
		6週	TOEIC Bridge Unit 8	図表・グラフなどの読み取りに慣れる。		
		7週	前期中間試験			
		8週	TOEIC Bridge Unit 9	1) TOEIC Bridge の問題形式に慣れる。 2) 接続詞・前置詞の使い分けができる。		
	2ndQ	9週	TOEIC Bridge Unit 10	1) TOEIC Bridge の問題形式に慣れる。 2) 接続詞・前置詞の使い分けができる。		
		10週	TOEIC Bridge Unit 11	1) 付加疑問文、発話に対する返答ができる。 2) ニュース記事・広告などの読み取りに慣れる。		
		11週	TOEIC Bridge Unit 12	1) 付加疑問文、発話に対する返答ができる。 2) ニュース記事・広告などの読み取りに慣れる。		
		12週	TOEIC Bridge Unit 13	基礎的な発音および聞き取りができる。		
		13週	TOEIC Bridge Unit 14	標準的な発音および聞き取りができる。		
		14週	TOEIC Bridge Unit 15	四技能を駆使した問題解決ができる。		
		15週	General Practice	総合演習		
		16週				
後期	3rdQ	1週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 1	標準的な語彙を習得し、名詞の可算、不可算が理解できる。		
		2週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 2	標準的な語彙を習得し、動詞の時制、自・他動詞の運用ができる。		
		3週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 3	標準的な語彙を習得し、基本5文型が理解できる。		
		4週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 4	標準的な語彙を習得し、疑問詞が理解できる。		
		5週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 5	標準的な語彙を習得し、使用を誤りやすい形容詞・副詞が理解できる。		
		6週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 6	標準的な語彙を習得し、時間・場所を表す前置詞を理解・運用できる。		
		7週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 7	標準的な語彙を習得し、受動態に関する理解と運用ができる。		
		8週	後期中間試験			

	4thQ	9週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 8	標準的な語彙を習得し、助動詞の理解と運用ができる。
		10週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 9	標準的な語彙を習得し、基本的な比較表現の理解と運用ができる。
		11週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 10	標準的な語彙を習得し、不定詞の各用法を理解し運用ができる。
		12週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 11	標準的な語彙を習得し、関係代名詞の基本的な理解と運用ができる。
		13週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 12	標準的な語彙を習得し、仮定法の基礎を理解し運用ができる。
		14週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 13	標準的な語彙を習得し、句動詞の理解と運用ができる。
		15週	CROSS OVER TOEIC Bridge Unit 14	総合演習
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	20	0	100
基礎的能力	70	0	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本語 I
科目基礎情報						
科目番号	68509		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	初級日本語げんきⅡワークブック (The Japan Times)					
担当教員	長谷川 佐知子					
到達目標						
1 日本での生活および本校で学校生活を送るのに十分な日本語運用能力を身につける。 2 日本の文化、習慣、社会制度などへの理解を深める。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		日本人向けに書かれたややフォーマルな日本語文を読んで理解できる。	漢字が少なく、比較的易しい口語調の日本語文を読んで理解できる。		日本語初級者向けのかかなり易しい日本文も読んで理解できない。	
評価項目2		漢字を交えて、文法的に誤りのない日本語文を書くことができる。	文法的にはおおむね正しい日本語文を書くことができる。		日本文がほとんど書けない。	
評価項目3		相手に配慮しつつ、自然な日本語で自分の意見を誤解なく口頭で伝えることができる。	話す日本語はやや不自然ではあるが、自分の考えを誤解なく口頭で伝えることができる。		日本語がほとんど話せないか、片言の日本語しか話せない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	それぞれの状況に応じて、本校での学校生活、日本での日常生活に十分に役立ち、日本人と誤解なく円滑にコミュニケーションをするための日本語運用能力を身につけます。					
授業の進め方・方法	少人数の授業なので、対話、演習形式で授業を行います。					
注意点	日本語、日本文化などについて分からないことがあったら、遠慮なく質問して下さい。初めて知る日本語の漢字や表現は、なるべく意識的に覚えるように努力して下さい。					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第13課 アルバイト探し		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		2週	第13課 アルバイト探し		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		3週	第13課 アルバイト探し		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		4週	第14課 バレンタインデー		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		5週	第14課 バレンタインデー		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		6週	第14課 バレンタインデー		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		7週	第15課 長野旅行		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		8週	第15課 長野旅行		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
	2ndQ	9週	第15課 長野旅行		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。日本語の基本的なしくみを覚える。	
		10週	第16課 忘れ物		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。自分が言いたいことを、誤解がないように自分なりに日本語で表現できる。	
		11週	第16課 忘れ物		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。自分が言いたいことを、誤解がないように自分なりに日本語で表現できる。	
		12週	第17課 ぐちとうわさ話		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。自分が言いたいことを、誤解がないように自分なりに日本語で表現できる。	
		13週	第17課 ぐちとうわさ話		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。自分が言いたいことを、誤解がないように自分なりに日本語で表現できる。	
		14週	第18課 ジョンさんのアルバイト		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。自分が言いたいことを、誤解がないように自分なりに日本語で表現できる。	
		15週	第18課 ジョンさんのアルバイト		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。自分が言いたいことを、誤解がないように自分なりに日本語で表現できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	第19課 出迎え		各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。	

		2週	第19課 出迎え	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		3週	第19課 出迎え	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		4週	第20課 メアリーさんの買い物	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		5週	第20課 メアリーさんの買い物	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		6週	第20課 メアリーさんの買い物	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		7週	第21課 どろぼう	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		8週	第21課 どろぼう	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
	4thQ	9週	第21課 どろぼう	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。ある程度混み合った内容を、十分伝えある形で日本語で正しく表現できる。
		10週	第22課 日本の教育	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。敬語表現や日本語独特のあいまい、えん曲な表現を覚え、日常会話に生かすことができる。
		11週	第22課 日本の教育	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。敬語表現や日本語独特のあいまい、えん曲な表現を覚え、日常会話に生かすことができる。
		12週	第22課 日本の教育	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。敬語表現や日本語独特のあいまい、えん曲な表現を覚え、日常会話に生かすことができる。
		13週	第23課 別れ	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。敬語表現や日本語独特のあいまい、えん曲な表現を覚え、日常会話に生かすことができる。
		14週	第23課 別れ	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。敬語表現や日本語独特のあいまい、えん曲な表現を覚え、日常会話に生かすことができる。
		15週	第23課 別れ	各単元が取り上げる重要表現を理解し、正しく使うことができる。敬語表現や日本語独特のあいまい、えん曲な表現を覚え、日常会話に生かすことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	2	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	2	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	2	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	68510			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	留学生の日本語（アルク）、英語で紹介する日本の年中行事（ナツメ社）、総合日本語初級から中級へ（ナツメ社）						
担当教員	富樫 恵						
到達目標							
1 日本での生活および本校で学校生活を送るのに十分な日本語運用能力を身につける。 2 日本の文化、習慣、社会制度などへの理解を深める。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本人向けに書かれたややフォーマルな日本語文を読んで理解できる。			漢字が少なく、比較的易しい口語調の日本語文を読んで理解できる。		日本語初級者向けのかかなり易しい日本文も読んで理解できない。	
評価項目2	漢字を交えて、文法的に誤りのない日本語文を書くことができる。			文法的にはおおむね正しい日本語文を書くことができる。		日本文がほとんど書けない。	
評価項目3	相手に配慮しつつ、自然な日本語で自分の意見を誤解なく口頭で伝えることができる。			話す日本語はやや不自然ではあるが、自分の考えを誤解なく口頭で伝えることができる。		日本語がほとんど話せないか、片言の日本語しか話せない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本語Ⅰをふまえ、自分の意見や感想を「話し言葉の日本語」で表現する能力を身につける。						
授業の進め方・方法	少人数の授業なので、対話、演習形式で授業を行います。						
注意点	日本語、日本文化などについて分からないことがあったら、遠慮なく質問して下さい。初めて知る日本語の漢字や表現は、なるべく意識的に覚えるように努力して下さい。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	自己紹介・自国紹介			各人各国を知り、理解を深める。	
		2週	4～6月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		3週	4～6月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		4週	4～6月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		5週	レッスン1 住宅			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		6週	レッスン2 足のうら			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		7週	レッスン3 るすばん電話			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		8週	7～9月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
	2ndQ	9週	7～9月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		10週	7～9月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		11週	レッスン4 コーヒー			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		12週	レッスン5 地下生活			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		13週	レッスン6 企業内学校			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		14週	レッスン7 商店			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		15週	前期のまとめ」			前期の学習内容の中で、重要な日本語表現をもう一度理解し、覚え直す。	
		16週					
後期	3rdQ	1週	10～12月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		2週	10～12月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		3週	10～12月の行事			日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。	
		4週	レッスン8 登校拒否			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	
		5週	レッスン9 宅配便			各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。	

		6週	レッスン１０ カード時代	各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。
		7週	レッスン１１ ゴミ	各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。
		8週	１～３月の行事	日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。
	4thQ	9週	１～３月の行事	日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。
		10週	１～３月の行事	日本の行事を知るとともに、各国の行事等を発表し合い理解を深める。
		11週	レッスン１２ コピー食品	各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。
		12週	レッスン１３ 在宅勤務	各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。
		13週	レッスン１４ サルと人間	各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。
		14週	レッスン１５ 相性	各レッスンの日本語と内容を理解する。 日本と各国の文化について話し合い、理解を深める。
		15週	後期のまとめ	後期の学習内容の中で、重要な日本語表現をもう一度理解し、覚え直す。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	2	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	2	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	2	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本事情
科目基礎情報						
科目番号	68511		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	授業中に配布した資料					
担当教員	澤 祥,薄葉 祐子					
到達目標						
日本の社会・歴史・制度・習慣について, 基本的な事項を理解でき, それを日本語で表現できる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本語を駆使して, 日本風習を説明, 議論できる		日本語によって日本社会の風習を理解できる		日本語によって日本社会の風習を理解できない	
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本での留学生生活を円滑に進められるようにするため, 日本の社会・歴史・制度・習慣について, 基本的な事項を教授する.					
授業の進め方・方法	留学生との日本語会話を通して, 日本の社会文化の基礎知識を伝える. 会話による発問・回答と日本語作文を特に重視する.					
注意点	日本語辞書を十分に活用し, 聞き取れなかったり, 理解できなかった内容は教員に必ず質問するようにする.					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本人の苗字 1		比較による説明ができる	
		2週	日本人の苗字 2		比較による説明ができる	
		3週	日本語の語彙 1		列挙による説明ができる	
		4週	日本語の語彙 2		列挙による説明ができる	
		5週	日本語の音 1		回想の表現ができる	
		6週	日本語の音 2		回想の表現ができる	
		7週	日本語の漢字 1		意見を述べられる	
		8週	日本語の漢字 2		意見を述べられる	
	2ndQ	9週	日本人の一生 1		年中行事や慣習の説明をできる	
		10週	日本人の一生 2		年中行事や慣習の説明をできる	
		11週	日本人の一生 3		年中行事や慣習の説明をできる	
		12週	日本人の一生 4		年中行事や慣習の説明をできる	
		13週	日本人と動物 1		イキイキとした描写をできる	
		14週	日本人と動物 2		イキイキとした描写をできる	
		15週	日本人と動物 3		イキイキとした描写をできる	
		16週				
後期	3rdQ	1週	鶴岡市を知る		鶴岡市の特徴を理解する	
		2週	日本の家族 日本の住居		日本の家族の姿、住居の特徴を理解する	
		3週	日本の教育制度 日本の食事		日本の教育制度や食事の特徴を理解する	
		4週	日本の家計 日本の社会保障		日本の家計や社会保障の特徴を理解する	
		5週	日本人の働き方		日本人の働き方の特徴を理解する	
		6週	日本の年中行事1		日本の年中行事の特徴を理解する	
		7週	日本の年中行事2		日本の年中行事の特徴を理解する	
		8週	日本の風物 日本の家・旅館		日本の風物、家・旅館の特徴を理解する	
	4thQ	9週	日本の結婚 日本の宗教		日本人の結婚、宗教の特徴を理解する	
		10週	日本の芸能・芸術 日本の娯楽		日本の芸能・芸術、娯楽の特徴を理解する	
		11週	日本のスポーツ 日本の祭り		日本のスポーツや祭りの特徴を理解する	
		12週	日本の精神 日本の地形		日本人の精神、日本の地形の特徴を理解する	
		13週	日本の人口、日本の気候、天災 日本のシンボル		日本の人口、気候、天災、シンボルの特徴を理解する	
		14週	日本の産業 日本の経済		日本の産業や経済の特徴を理解する	

		15週	日本の交通 日本の環境問題		日本の交通や環境問題について理解する		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3		
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3		
			地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3		
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育(4年)	
科目基礎情報							
科目番号	0232		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		4		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	Activesports						
担当教員	松橋 将太						
到達目標							
1 生涯スポーツの観点から、様々なスポーツ活動を通じて自己に見合った活動実施ができる。 2 心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。 3 運動を行う環境に対して自身の役割を理解し、他者と協力して環境設営ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実技①. 意欲・態度		生涯スポーツの観点から、様々なスポーツ活動を通じて自己に見合った活動実施ができる。		生涯スポーツの観点から、様々なスポーツ活動を通じて、活動のムラが見られる。		相手の意見を聞かずに自己中心的な行動を図り、協力・協調が図れない。	
実技②. 協働・交流		集団における運動実施のための倫理的かつ常識的なコミュニケーションを経て、実行に移すができる。		集団における運動実施のための倫理的かつ常識的なコミュニケーションを図れる。		集団における運動実施のための倫理的かつ常識的なコミュニケーションに対して消極的である。	
実技③. 自己管理・配慮		用具や施設を正しく大切に使用し、周囲や他使用者への気遣いができる。		用具や施設を問題なく使用し、周囲や他使用者への気遣いがあまりみられない。		用具や施設、周囲や他使用者への気遣いがみられない。	
学習①. 意欲・態度		自己の体調と現状、集団での取り組み方を考慮し、体系的なスポーツ活動計画に参画できる。		スポーツ活動において、周囲と合わせることができる。		自己の体調と現状によって、集団へのポジティブな参画が乏しい。	
学習②. 協働・交流		スポーツ活動計画の立案において、積極的な声かけ、意見の傾聴・提案・集約ができる。		スポーツ活動計画において、積極的発言はできないが、一部の責任者役割を率先して担える。		スポーツ活動計画において、話し合いや役割分担に積極的な活動が見られない。	
学習③. 自己管理・配慮		スポーツ活動計画（案）を提出したり、周囲の意見を尊重した譲りあいが見られる。		考案された意見や計画にたいして、前向きな意見を伝え、修正への手助けができる。		考案された意見や計画にたいして、否定的・消極的な対応が目立ってしまう。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		自己の健康について考えると際に、スポーツ活動を通じた心身の健康維持の意義と喜びを感得する。また、自己調整力の向上を図りながら、協力、参画、責任などの社会的態度を育み、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。					
授業の進め方・方法		適時種目内容に応じて適切な施設、用具、服装を使用して、毎時間の目標に沿った形で進めることとする。					
注意点		特に注意すべき評価対象となるべき行為 ・理由なき遅刻（私的な都合は理由にならない） ・無断早退（どんな場合でも本人が教員に報告してから早退すること） ・授業に関係ない電子機器の操作（単位認定の可否有）					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	選択種目（4種目から選択）		・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。		
		2週	1)サッカー／ソフトボール		・仲間と協力して行動できる。		
		3週	2)バドミントン／バスケットボール		・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。		
		4週	3)ソフトバレー		・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。		
		5週	4)陸上／卓球		・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。		
		6週	種目別協働実施①（屋外）				
		7週	・ベースボール型				
		8週	・ネット型				
	2ndQ	9週	・ニュースポーツAorB				
		10週					
		11週	種目別協働実施②（屋外）		※種目別協働実施①（屋外）とは異なる種目選択を実施する。		
		12週	・ベースボール型				
		13週	・ネット型				
		14週	・ニュースポーツAorB				
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	種目別協働実施③（屋外・屋内）				
		2週	・ベースボール型				
		3週	・ゴール型				
		4週	・ネット型				

		5週	・ニュースポーツCorDorE	
		6週	種目別協働実施④（屋内）	※種目別協働実施③（屋内）とは異なる種目選択を実施する。
		7週	・ベースボール型	
		8週	・ゴール型	
	4thQ	9週	・ネット型	
		10週	・ニュースポーツCorDorE	
		11週	種目協働実施⑤（屋内）	※種目別協働実施④（屋内）とは異なる種目選択を実施する。
		12週	・ベースボール型	
		13週	・ゴール型	
		14週	・ネット型	
		15週	・ニュースポーツCorDorE	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	意欲・態度	協働・交流	自己管理・配慮	合計	
総合評価割合	30	30	40	100	
実技・実施態度	30	0	0	30	
レディネス	0	30	0	30	
授業態度面	0	0	40	40	

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語 I (4年)	
科目基礎情報							
科目番号	0233			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	新TOEICテスト470点攻略 (旺文社)						
担当教員	丹生 直子						
到達目標							
TOEIC-I Pで400点程度の得点が出るような実力を身に着ける。また、大学1年生に相当する英語力を身に着け、将来的に英語の論文を読んだり、英語のプレゼンテーションが理解出来るような基礎的な力を身に着ける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 英単語を覚えて、英作文の中で使う。		英単語を覚えて、英作文の中で応用して使う事が出来る。		英単語を覚えることが出来る。		英単語を覚えることが出来ない。	
評価項目2 リスニングで会話・スピーチの内容を理解する。		リスニングで会話・スピーチを理解できる。		リスニングで会話・スピーチを概ね理解できる。		リスニングで会話・スピーチを理解できない。	
評価項目3 語彙力・文法の知識・読解力で空所補充問題・長文問題を長文問題を解く。		空所補充の的確な語句を選び、長文を理解できる。		空所補充の適した語句を選び、長文を概ね理解できる。		空所補充・長文問題を解けない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		この授業では、1月下旬に4年生全員が受験するTOEIC-I Pテストの試験対策を行います。TOEIC300点代後半から400点以上獲得のために必要なリスニング、リーディングスキルの習得を目指します。単語と熟語の小テスト、2回のTOEIC模擬試験、前期末テスト等を実施し、1月のTOEIC-I Pテストに向けて、段階的に英語力を高めていきます。					
授業の進め方・方法		毎回授業の最初に単語・熟語の小テストを行い、教科書「新TOEICテスト470点攻略」を使いながら、問題を解き、答え合わせをしながら進んでいきます。					
注意点		TOEICの点数向上を目標とした授業だが、獲得点数に相当する英語の実力が身に付くような授業を行います。ただし、スピーキング・ライティングよりもリーディング・リスニングを重視する授業となります。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、教員・学生の英語による自己紹介、TOEIC試験の説明を行う。			学生がTOEICという試験の内容・構成及び授業の一年間の予定を理解する。	
		2週	小テスト、UNIT1と2の演習			授業に参加し、問題を解く。授業のスタイルに慣れていく。	
		3週	小テスト、模擬試験（50分）の実施と解答・解説、英語の歌を聴く。			TOEIC全体の構成を把握する。	
		4週	小テスト、UNIT3と4の演習			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		5週	小テスト、UNIT5の演習			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		6週	小テスト、UNIT6の演習と答え合わせ、映像資料の英会話			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		7週	小テスト、UNIT7と8の演習と答え合わせ、			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		8週	小テスト、UNIT9の演習と答え合わせ、演習			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
	2ndQ	9週	小テスト、UNIT10の演習と答え合わせ、アメリカ文化の紹介			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		10週	小テスト、第1回模擬試験（リスニング45分）、英語の歌を聴く。			問題を解き、TOEICの出題形式を再確認する。	
		11週	小テスト、第1回模擬試験（リーディング75分）			問題を解き、TOEICの出題形式を再確認する。	
		12週	小テスト、第1回模擬試験の自己採点及びsection5の解説			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		13週	小テスト、UNIT11の演習と解説、前期末試験の説明			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		14週	小テスト、UNIT12の演習と解説、カードゲーム			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		15週	小テスト、UNIT12の演習と解説			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		16週					
後期	3rdQ	1週	小テスト、前期末試験の返却と答え合わせ			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		2週	小テスト、UNIT13の演習と解説			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		3週	小テスト、UNIT14の演習と解説			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		4週	小テスト、UNIT14の演習と解説、単語・熟語カードゲーム			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		5週	小テスト、PART7の長文問題対策について			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		6週	小テスト、UNIT15の演習と解説			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		7週	小テスト、UNIT15の演習、映像資料を使ったアメリカ文化紹介			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	
		8週	小テスト、UNIT15の演習、映像資料を使ったアメリカ文化紹介			問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。	

4thQ	9週	小テスト、UNIT16の演習と解説、単語カードゲーム	問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。
	10週	小テスト、第2回模擬試験（リスニング45分）、英語の歌を聴く。	問題を解き、TOEICの出題形式を再確認する。
	11週	小テスト、第2回模擬試験（リーディング75分）	問題を解き、TOEICの出題形式を再確認する。
	12週	小テスト第2回模擬試験の自己採点及びsection5の解説を行う。	問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。
	13週	教科書のUNIT16の演習及び解説	問題を解き、解説を通じて聞き、理解を深める。
	14週	映像資料を用いた英会話	英語字幕を見ながら会話を理解する。
	15週	英会話、TOEIC-I Pの結果配布、英会話、英語学習について。	英会話、今後の英語学習について理解を深める。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	
			英語の発音記号を見て、発音できる。	3	
			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
			自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	ドイツ語(4年)	
科目基礎情報							
科目番号	0234			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	新版 問いかけるドイツ語 初級表現トレーニング,新キャンパス独和辞典						
担当教員	佐藤 伸浩,LUKAS RIESER						
到達目標							
音声学専門の著者によるテキストを採用することで、口を良く動かすことによりドイツ語の特色に触れることを通じ、文法の仕組みや初歩的な表現を身につける。 冠詞の格変化、人称代名詞の格変化、規則変化動詞の現在人称変化は100%記憶する。 主立った不規則活用動詞の人称変化は、出来るだけ記憶できることが望ましい。 形容詞の格変化語尾屈折は、法則の理解は求めるが、屈折そのものの記憶は求めない（法則などは5年生で詳述する）。 テキスト掲載の文章などを中心にして、日独の文化の比較をおこなうことにより、ドイツを中心とした欧州への理解を深める。 臨場感を持たせるために、講師が以前居住していた地域に起こった事件記事なども随時取り上げていきたい。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	冠詞の格変化を銘記し、使うことが出来る。			冠詞の格変化を、ヒントがあれば言える。		ヒントを与えられても冠詞の格変化を言えない	
評価項目2	人称代名詞の格変化を、ヒント無しで完全に覚えている。			人称代名詞の格変化を、ヒントをもらって言うことが出来る。		人称代名詞を把握していない	
評価項目3	規則変化動詞の現在人称変化に加え、主な不規則変化動詞の現在人称変化を言うことが出来る。			規則変化動詞の、現在人称変化を言える。		規則変化動詞の現在人称変化を言えない	
評価項目4	未知の単語をみても、ドイツ語での発音が出来る。			未知の単語を、既知の単語によるヒントで発音できる。		発音が英語と混乱するなど、特徴を見出していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中学校以降あまり求められる傾向の無い「口を動かす」授業に参加してもらうことで、ドイツ語の音感と特色に触れてもらうことを通じ、初歩の文法を身につける。 形容詞の格変化、ZU不定詞、受動態、関係文、接続法については5年生での学習とする。 初級文法（ドイツ語検定4級程度）取得の後、5年生では短めな文（レベルに合わせた報道文、著名な文学作品で簡単なもの）を辞書があれば読めるようになることで、英語以外の語学への関心を強く抱かせるとともに、文化の比較を通じてドイツ的な思考や欧州についての広い見方を体得してもらう。						
授業の進め方・方法	文法項目の順序に従って授業を進めるが、未習の文法事項も教科書の例文に出てきた場合は先取りして解説する。 正確なドイツ語らしい発音を身につけてもらうことを目標に、主に音源を利用した音声トレーニングを重視し、随時発話練習をおこなう。 音感を訓練するために、授業時間中にネットストリーミングで配信されるラジオ音声なども聞かせるが、少しでも聞き取れる単語があればメモをする等して、リスニング後に発表させる。 毎回の授業で取り上げられたトピック（4年生では、各活用がメインとなり、徐々に短文が対象）につき、次回授業の開始時に20人ずつ前もって予告した内容の口頭暗唱試験を実施する。 出来なければ出来るようになるまで毎回の授業で繰返すが、音声重視の授業のため、よりドイツ語らしいものが優位となることとなる。						
注意点	殆どの者が初めて触れることとなるドイツ語の学習を開始するにあたり、言語習得にはどのような考えであたるべきかを意識してもらいたい。 中学校で始めた触れた英語の授業は完全に先生主導で進んだものと思うが、ドイツ語学習を通じ自習の効率性を振り返ってほしい。 とくに、敢えて口頭暗唱についてはドイツ語らしい発音を重視したいと思うので、模範となる音声を繰返し聞き、将来にわたって応用が利くようになってほしいと望んでいる。 基本的にはローマ字発音であり、僅かの発音規則を習得すれば発音は出来る筈なので、カタカナに頼る発音にならないように指導してゆきたい。 口頭での暗唱試験は、1回2点満点とし、滞り無く言えれば2点、滞ったり、教員のヒント、手助けがあって出来た場合1点、ヒントがあっても出来なかった場合は0点。 口頭試験の結果に納得出来ない場合は何度でもやり直しを認める。 中間試験1回、期末試験1回を授業時間内に実施し、2回合計で50%、口頭暗唱試験や小テスト等で35%、レポートで15%を配分し、合計60%以上を合格とする。 教科書的には、全12課のうち、10課までを4年生で終了させることとなる。 レポートは、現代ドイツやテクノロジーに関する読み物（和書）の候補の中から、読書感想文を寄せてもらうことで実行したい。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	i〜iii、1、授業計画ガイダンス、ドイツ語であいさつ アルファベット、発音その1（母音）			年度の学習計画を理解してもらうが、その際に採点方針を明らかにする。毎回のようにおこなわれる口頭試験の方法を理解してもらう。 英語の26字に加え、4つの特有文字を理解する。母音について、単純母音、複合母音ともにマスターしてもらうが、特殊なものは少ないことに力点を置き、取り付きやすいものにした。	
		2週	iv〜v、1〜3、発音その2（子音）、数字 動詞の現在人称変化			ローマ字的な発音を基本に、後続の母音に影響されるもの、二重子音を良く理解してもらう。数字については、まずは基本数字、追って序数を理解するようにしてもらうが、単純な覚え方よりも使用しながら覚えてもらいたい。 代表的動詞でもある、kommen wohnen heißenの変化を身につけてもらうが、当然一人称代名詞とともに覚えてもらう。	

		3週	4～9、動詞seinとhabenの変化、動詞の位置 11以上の数字、名詞の性、名詞の1格、4格	極めて重要な動詞の活用を理解、習得する。定動詞第二位、について用例を見ることが体得してもらう。 数字については、一桁のものとともに口頭試験を行って定着を計りたい。名詞が大文字で記されること、またそれぞれに性があることに興味を持ってもらう。ドイツ語における格、を英語の理解を応用して習得できないか探してもらう。
		4週	10～15、所有冠詞 不規則動詞の現在人称変化	名詞の性と代名詞の性に混乱しないように気を払って覚えてもらうようにするが、実用頻度が高いと思われないdeinやe u e rについてはすべてIhrで言い換えられても問題としないものとしたい。 代表的動詞の変化を覚えてもらう。テキスト上のschlafen lesen sprechenなどは口頭試験で必ず取り上げられることを示し、意識を高めてもらいたい。
		5週	復習、動詞の現在人称変化	動詞の人称変化について、一通りの復習をしてもらい、中テストで理解と取得度を確認してもらう。
		6週	16～21、名詞の複数形 名詞の3格、3格支配の前置詞	複数形に関しては、英語との考えが全く異なることを理解の上、テキストで取り上げられているものを理解する。特徴的な語尾変化をよく覚える。 改めて格とは何かが問われるが、再度英語の構文から3格について確認することから始め、既習の1格4格と合わせて理解の幅を広げたい。
		7週	22～26、4格支配の前置詞、前置詞の融合形 人称代名詞の3格、4格	格支配、について理解を深め、定冠詞との融合形の使われ方を検討する。 格支配、の復習をおこなった上で、人称代名詞にもその考え方が及ぶことを理解してもらうが、機械的に覚えられたら、文にして応用できるように心掛けてもらいたい。
		8週	27、時刻の表現 中間試験	公式、慣用的なふたつの用法があることを理解する。 口頭試験ではできれば両方を答えてもらいたい、片方でも可とする。 前期のまとめテストである。現在動詞変化や格支配の理解、指定した短文の和訳等に取り組んでもらいたい。
	2ndQ	9週	28～33、分離動詞、非分離動詞 話法の助動詞(1) 話法の助動詞(2)	前綴り、について理解するが、テキストに取り上げられている代表的なものの使用理解に留めたい。 感情表現の重要な文法なので、時間を掛けて進めたい。 前半はkönnen sollen mogen(möchte)を取り上げ、多くの例を検討する。自作の文を口頭試験で取り上げられればと考えている。 受動史の後半は、wollen müssen dürfenを取り上げ、同様に展開したい。
		10週	34～39、命令形 3,4格支配の前置詞(1) 3,4格支配の前置詞(2)	敬称、親称での使い方の違いを理解するが、動詞の人称変化を再確認しながら進めたい。 第一回目は、機械的に覚えるように努力するが、場所と方向、の概念を明らかにして覚えたい。 第二回目は、テキストに掲載の地図で練習してみるのが、慣れたら学内の案内にも挑戦してみたい。
		11週	40～45、並列接続詞 現在完了(1) 現在完了(2)	英語の知識を応用して習得に努める。並列とは何かを理解するため、第27回目で扱う従属／条件の接続詞を対比のため登場させる。 口語では、過去を表現するのに現在完了が使用されることを理解するとともに、英語との違いにも着目してみたい。 実例を豊富に取り上げ、学生自らも表現できるように試みたい。
		12週	46～51、過去形 定冠詞類	現在完了形との違いを理解し、過去形が規則／不規則両者あるものの、人称変化は規則的であることを理解し、よく使われるものは覚える。 形容詞格変化の入門であるが、基本的にはその現象があることを把握することに留めたい。ただし、好学者は積極的に覚えてもらってかまわない(試験の範囲外である)。
		13週	52～57、副文 比較級と最上級	副文とは何か、を理解し、従属の接続詞を覚えるが、その際第5回以降注視している定動詞第二位について確認をするようにする。 接続詞alsを使用した比較の表現、またamを使った最上級、同等比較の基本的k使い方に慣れる。
		14週	58～60、再帰代名詞と再帰動詞	再帰、の考え方を理解するとともに、代表的なものに慣れる。前置詞句を伴ったもので代表的なものを口頭試験の対象にしたい。
		15週	期末試験	後期のまとめテストである。助動詞、3,4格支配の前置詞、現在完了の理解がメインとなる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	35	0	0	0	15	100
基礎的能力	50	35	0	0	0	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育(5年)	
科目基礎情報							
科目番号	0197			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	Activesports						
担当教員	松坂 渉						
到達目標							
1 生涯スポーツの観点から、様々なスポーツ活動を通じて自己に見合った活動実施ができる。 2 心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。 3 運動を行う環境に対して自身の役割を理解し、他者と協力して環境設営ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 意欲・態度	自己の健康管理のために必要な知識を理解し、具体的な取り組みを計画することができる。			自己の健康管理のために必要な知識を理解し、取り組みに参加できる。		運動を通じて、自身の健康管理意識が見られない。	
2. 協働・協力	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。			心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために協力できる。		心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために消極的である。	
3. 自己管理・配慮	自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定・安全管理ができる。			自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定ができる。		自己の健康維持のために運動機会を設けるための倫理観が養成できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	基本的習慣を鑑みて、自身の健康維持を目的とした生涯スポーツの実施に取り組むことができる。さらには、集団での取り組みを基本とし、自身の体調を考慮した自己管理能力と体力の養成ができる。						
授業の進め方・方法	適時種目内容に応じて適切な施設、用具、服装を使用して、毎時間の目標に沿った形で進めることとする。						
注意点	特に注意すべき評価対象となるべき行為 ・理由なき遅刻（私的な都合は理由にならない） ・無断早退（どんな場合でも本人が教員に報告してから早退すること） ・授業に関係ない電子機器の操作（単位認定の可否有）						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	選択種目（4種目から選択）		・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。		
		2週	1)サッカー／ソフトボール		・仲間と協力して行動できる。		
		3週	2)バドミントン／バスケットボール		・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。		
		4週	3)ソフトバレー		・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。		
		5週	4)陸上／卓球		・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。		
		6週	生涯スポーツ		＜ キーワード ＞		
		7週	A：硬式テニス		・仲間との協働		
		8週	B：アルティメット		・スポーツ活動における倫理観		
	2ndQ	9週	C：ソフトボール		・運動計画の設定		
		10週	D：ユニホック		・様々な人との協力		
		11週	E：ソフトバレー（パレバレー）				
		12週	F：フットサル（サッカー）		※最後に種目に応じたレポート課題の提出を実施する。		
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	意欲・態度		協働・交流		自己管理・配慮		合計
総合評価割合	30		40		30		100
体育態度面	30		0		0		30
授業態度評価&レディネス	0		40		0		40
スポーツ活動シート	0		0		30		30

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	ドイツ語(5年)	
科目基礎情報							
科目番号	0198		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	一般科目		対象学年		5		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉 コミュニカティブ版						
担当教員	佐藤 伸浩,LUKAS RIESER						
到達目標							
4年生で網羅出来なかった初級文法のうち、比較表現、再帰動詞、再帰代名詞、受動態、接続法などの理解を深める。初級文法が終わったら、自ら辞書を引き、初歩の文字テキストの読解にチャレンジできることを目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	文法の知識に基づいて辞書を引き、適切な意味を見つける事ができる。		辞書は引くが、見出し語となるはずの語形を正しく導けず、語彙が発見できない。		辞書を引く意欲がない。		
評価項目2	下調べの段階で歯ごたえのある文章としっかり格闘する熱意があり、予習で解決出来なかったことを授業での学習体験を、自力解決の体験とほぼ同じ質にまで高められる。		一応辞書は引くが、辞書上の意味でストップし、テキストでの意味ないように踏み込むところまで進めない。		テキストとの格闘に意義を見出せない。		
評価項目3	耳で聞く努力が出来、文字テキストに食らいついていこうとする意欲がある。		文字テキストにあまり意義を感じない。		文章への関心がほとんどゼロに近い。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	初級文法の残りを仕上げる。平易な文字テキストを講読する。						
授業の進め方・方法	文法説明、語彙説明をもとに文例の音読、和訳、さらに練習問題と進める。授業の最後に毎回、文法についての暗唱試験、初級文法が終わった後は授業で扱うテキストから、ある程度まとまった文の暗唱試験を実施する。						
注意点	・前期開講のクラスと後期開講のクラスがあるが、毎回の授業内容については前期のみ記す。後期開講のクラスも前期開講のクラスに準ずる。 ・学修単位の授業なので、初級文法終了後はテキストの下調べをした上で授業に臨む事を求める。 ・口頭での暗唱試験は1回2点満点とし、滞り無く言えれば2点、滞ったり、教員のヒント、手助けがあっても出来た場合1点、ヒントがあっても出来なかった場合は0点。なお、口頭試験の結果に納得出来ない場合は何度でもやり直しを認める。 ・期末試験2回分に 50%、暗唱試験に 20%、レポートに 10%、授業での 担当箇所の発表の評価に 20% を配分して最終評価とし、60% 以上を合格とする。 参考書：中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著：改訂版 必携ドイツ文法総まとめ、白水社						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	完了時制の復習		現在完了の用法が英語と異なる面があることを理解し、現在分詞、過去分詞の使い方等を確認する。		
		2週	形容詞、副詞の比較変化		原級、比較級の表現に習熟する。		
		3週	形容詞、副詞の比較変化		最上級表現に習熟する。		
		4週	再帰表現		再帰代名詞の格変化を覚える。再帰動詞の使い方が分かるようになる。		
		5週	受動態		受け身の助動詞としてのwerdenを理解し、動作主をぶら下げる前置詞vonとdurchを覚える。状態受動の助動詞seinを覚え、また不定代名詞manを主語とする能動文がなぜ受動表現として使われるのかを理解出来るようになる。		
		6週	接続法の作り方		法が定形動詞を分類するカテゴリーであり、直説法、命令法、接続法の3種類あることを理解し、例えば過去形は定形動詞であることを知る。4年生で覚えたmöchteの人称変化をもとに、接続法I式、II式の作り方を理解出来るようになる。		
		7週	接続法の用法整理		要求語法、間接引用、非現実話法の実際を観察し、英語の仮定法の復習を兼ねる。		
		8週	まとめと中間試験		初級文法のおさらいをし、習熟度の確認をする。		
	2ndQ	9週	テキスト講読		事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。		
		10週	テキスト講読		事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。		
		11週	テキスト講読		事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。		
		12週	テキスト講読		事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。		
		13週	テキスト講読		事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。		

後期		14週	テキスト講読	事前に下調べし、少し手強いテキストと格闘する経験を積む。下調べではたどり着けなかったところを授業で理解出来るようになる。
		15週	まとめと期末試験	テキストのおさらいをし、習熟度の確認をする。
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100	
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	語学演習(田邊)		
科目基礎情報								
科目番号	0199			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	一般科目			対象学年	5			
開設期	前期			週時間数	1			
教科書/教材	自作教材							
担当教員	田邊 英一郎							
到達目標								
1 既習の文法事項を総復習し、文法知識を再び定着させる。 2 再度定着した文法知識が、英語の読み書きに運用できる。 3 再度定着した文法知識が、英語を聞いたり話したりすることに運用できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	英検2級合格に必要な文法知識を運用し、英語が読み書きできる。			英検準2級に必要な文法知識を運用し、英語が読み書きできる。		英検3級合格に必要な文法知識でさえ、英語の読み書きに運用できない。		
評価項目2	英検2級合格に必要な文法知識を運用し、英語を聞いたり話したりすることができる。			英検2級合格に必要な文法知識を運用し、英語を聞いたり話したりすることができる。		英検3級合格に必要な文法知識でさえ、英語を聞いたり話したりすることに運用できない。		
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	主に低学年で学習した英文法を再度総復習し、基礎的な文法知識を再定着させます。また、再定着した知識が、英語を書く、読む、聞く、話ごとに十分に運用できるようになることを目指します。							
授業の進め方・方法	授業の度に配布するプリントの問題を各自解いてもらいます。一定時間の後、解説と答え合わせをします。それぞれのプリントは何らかの文法項目に特化した内容ですが、全ての授業を受講すると、既習の文法項目を総復習することができます。							
注意点	問題演習を行う際、ただ答えが合っていればよいと考えるのではなく、正解となる理由を自分なりに理解してもらいたいと思います。また、英語に関することで疑問な点があったときは、遠慮せずに教員に質問して下さい。英文法を体系的に総復習する機会は、おそらくこれが最後でしょう。							
事前・事後学習、オフィスアワー								
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	動詞と文型			英語の文は、主語、動詞、目的語、補語あるいは修飾語で構成され、これらの結びつき方に基本的に5つの型があることが理解できる。		
		2週	動詞と時制			過去形、過去進行形の基本的な形式と意味が理解できる。未来を表す様々な表現の形式と意味が理解できる。		
		3週	完了形			現在完了形の基本的な形式と意味が理解できる。過去完了形の基本的な形式と意味が理解できる。		
		4週	助動詞			様々な助動詞の意味が理解できる。		
		5週	助動詞、態			様々な助動詞の意味が理解できる。受動態の基本的な形式と意味が理解できる。		
		6週	態、不定詞			様々な形の受動態の基本的な意味が理解できる。不定詞の名詞的用法と形容詞的用法の基本的な形式と意味が理解できる。		
		7週	不定詞			不定詞の副詞的用法の基本的な形式と意味が理解できる。不定詞の否定語の位置が理解できる。		
	2ndQ	8週	テスト1			問題全体の6割以上に正解できる。		
		9週	(テスト1の返却)、動名詞			動名詞の基本的な形と意味が理解できる。		
		10週	分詞			現在分詞、過去分詞の基本的な形式と意味が理解できる。分詞を用いた様々な文の基本的な形式と意味が理解できる。		
		11週	比較			原級や比較級を用いた比較表限の基本的な形式と意味が理解できる。最上級を用いた比較表限の基本的な形式と意味が理解できる。		
		12週	関係詞			それぞれの関係代名詞の基本的な用法が理解できる。前置詞＋関係代名詞、関係代名詞whatの基本的な用法が理解できる。様々な関係副詞の基本的な用法が理解できる。		
		13週	仮定法			仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な形式と意味が理解できる。仮定法を用いた様々な表現の基本的な形式と意味が理解できる。		
		14週	1→13週までの学習内容の復習			授業を通じて復習したことの大部分を正しく理解し、基礎的な運用ができる。		
		15週	テスト2			問題全体の6割以上に正解できる。		
16週								
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	語学演習 (阿部)	
科目基礎情報							
科目番号	0261			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	一歩上を目指すTOEIC TEST: Level 3 (朝日出版)						
担当教員	阿部 秀樹						
到達目標							
1. TOEICテストで600点以上のスコアを獲得するために必要な語彙・文法を理解、運用ができる。 2. 英語による会話や談話を聴いて内容を理解する標準的な能力を習得する。 3. 英語で書かれた標準的な文章を素早かつ的確に理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	CEFR Bレベルに達することができる。			CEFR A2レベルに達することができる。		CEFR A1レベルに達することができない。	
評価項目2	CEFR Bレベルに達することができる。			CEFR A2レベルに達することができる。		CEFR A1レベルに達することができない。	
評価項目3	CEFR Bレベルに達することができる。			CEFR A2レベルに達することができる。		CEFR A1レベルに達することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語コミュニケーション能力を測定するために開発された資格試験、TOEICテストや英検において、最低限の英語力指標 (TOEIC600点以上、英検2級以上) に到達するために、ListeningとReading能力の総合的な向上を目標とする。						
授業の進め方・方法	Listening SectionとReading Sectionのそれぞれの特徴と対策を踏まえ、語彙力と文法理解力、読解力を包括的に養成する。						
注意点	試験の成績を70%, 平素の学習状況等(課題・TOEICテスト・レポート等を含む)を30%の割合で総合的に評価する。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Unit 1: Eating Out		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		2週	Unit 2: Travel		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		3週	Unit 3: Amusement		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		4週	Unit 4: Meetings		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		5週	Unit 5: Personnel		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		6週	Unit 6: Shopping		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		7週	Unit 7: Advertisement		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		8週	Unit 8: Daily Life		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
	2ndQ	9週	Unit 9: Office Work		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		10週	Unit 10: Business		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		11週	Unit 11: Traffic		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		12週	Unit 12: Finance and Banking		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		13週	Unit 13: Media		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		14週	Unit 14: Health and Welfare		ペアワークやグループワークを通して、授業で学習したことの60%を理解できる。		
		15週	Exam		演習問題に於いて60%以上の正解率を示すことができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3		
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3		
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3		
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3		
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3		

				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	20	0	100
基礎的能力	70	0	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	語学演習(菅野)	
科目基礎情報							
科目番号		0262		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科		一般科目		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	1		
教科書/教材		TOEIC® Test: Workout→300					
担当教員		菅野 智城					
到達目標							
TOEIC®スコア300点以上を保持し、最終的に400点に到達することを目指す。TOEIC®に取り組むにあたり、学習上必要となる語彙、文法の増強を図る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 英語の語彙・文法・表現を身につける。		英語の表現を身につけ、状況や話の流れに応じて内容的に把握することが出来る。		英語の語彙・文法・表現を身につけ、ある程度把握ことが出来る。		英語の語彙・文法・表現を身につける事が出来ない。	
評価項目2 解答への適切なアプローチを身につける。		TOEIC®形式の問題解答にあたり、根拠を明確にして、解答することができる。		TOEIC®形式の問題解答にあたり、問題内容をある程度理解して解答することができる。		TOEIC®形式の問題解答にあたり、問題の内容を理解できず、解答することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		TOEIC®スコア300点以上を保持し、最終的に400点に到達することを目指す。TOEIC®に取り組むにあたり、学生は問題形式に慣れ、限られた時間で解答できることが求められる。その中で、学習上必要となる語彙、文法の増強を図る。					
授業の進め方・方法		1回の授業ではテキストの内容とTOEIC®形式の練習問題を扱う。テキストの内容は、語彙・文法等の基礎的な学習内容と、TOEIC®の問題形式から成る。学生の皆さんの基礎力を固めるために文法の学習も加える。問題の形式・内容、英文の構造、内容について受講者の理解を確認しつつ解説を行う。授業内の一定時間を用いてTOEIC®に対応する練習をおこなう。授業の進捗や展開によって若干の変更があり得る。					
注意点		語彙に関する項目については、あらかじめ予習してきてください。分からないところはそのまま放置せず、遠慮なく教員に質問に来てください。授業には辞書を必ず持参すること。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	Unit 1: 人物の様子や動作 (Part 1) , 動詞の変化 (Part 5)			動作を表す-ing形 (進行形) に慣れる。主語と時制の基礎を理解する。	
		2週	Unit 2: 疑問視を使う問いかけ (Part 2) , 動詞の形を決める要素 (Part 5)			主語と時制を手掛かりにできる。動詞の原形, 未来の表現について理解する。	
		3週	Unit 3: 店頭での会話 (Part 3) , 動詞にからむ補充 (Part 6)			会話の場所と人を理解できる。ビジネスレターの形式と内容を把握できる。	
		4週	Unit 4: 放送案内 (Part 4) , 公共施設の掲示文 (Part 7)			放送の場所と目的を聞き取る。対象者, 目的, 具体的内容を理解できる。	
		5週	Unit 1-4rの復習, 文法事項の確認				
		6週	Unit 5: 物の様子や位置 (Part 1) , 時と場所の前置詞 (Part 5)			前置詞を用いた位置関係を理解できる。前置詞の意味と使い分けを理解できる。	
		7週	Unit 6: Yes / No 疑問文 (Part 2) , つなぎのことば 接続し (Part 5)			意味のつながりで英語の質問内容を理解する。質問文と回答の文脈をつなげる。	
	2ndQ	8週	Unit 7: 電話の会話 (Part 3) , 前置詞と接続詞の補充 (Part 6)			電話をかけた人とその要件を聞き取る。商品の広告文を使って, その内容を把握する。	
		9週	Unit 8: 録音メッセージ (Part 4) , 社内のメモ (Part 7)			相手に求める行動を聞き取る。目的, 依頼内容, 同義語を理解する。	
		10週	Unit 5-8の復習, 文法事項の確認				
		11週	Unit 9: 人物と背景の描写 (Part 1) , 人や物の代名詞 (Part 5)			写っているものの細部を聞き取る。名詞を正しく言い換える。	
		12週	Unit 10: 勧誘や依頼の表現 (Part 2) , 品詞の使い分け (Part 5)			了承するか断るかを聞き分ける。単語の形で品詞を見分け, 正しく使う。	
		13週	Unit 11: 同僚との会話 (Part 3) , さまざまな品詞の補充 (Part 6)			会話の中で, 話者の抱えている問題を把握する。説明書・保証書の要点を把握する。	
		14週	Unit 12: 身近なラジオ放送 (Part 4) , 求人広告と応募の手紙 (Part 7)			放送の具体的な情報を聞き取る。ダブルパッセージの読み方を身につける。	
		15週	Unit 9-12の復習, 文法事項の確認				
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3		
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3		
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3		
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3		
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3		
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3		

				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
評価割合						
	試験	学習状況・態度	小テスト・課題	合計		
総合評価割合	70	10	20	100		
基礎的能力	70	10	20	100		